

インタビュー

「明日を拓く」

第240回

最悪の状況が起きる前に  
先に直しておく  
それが私の役目です

日電協理事長

ゲスト

佐野慎一氏

パチスロのさまざまな課題について、自らの構想を淡々と語る佐野慎一理事長

今月のゲストは、さる6月の日電協総会で  
第8代理事長に就任した佐野慎一氏。

高射幸性遊技機の取扱いについて6団体合



1947年生まれ。岡山県出身。  
1970年 山佐産業(株)代表取締役。  
1975年 山佐(株)代表取締役。  
日電協では副理事長・技術委員会委員長を7期13年間務め、2015年理事長に就任。

聞き手=「日電協」編集部

意の形成、5・5号機への12月1日からの移行など、射幸性の抑制にまつわる大波が寄せる中での船出となった。  
パチスロを含めた遊技産業の活性化へ、佐野理事長の自然体の舵取りが期待される。

——日電協理事長に就任、おめでとうございます。すでに多くのメディアで聞かれています。私自身としては、改めて、その抱負からお聞かせください。

自然体でいきます

**佐野** 里見さんが長く理事長をされた後ですから、65歳を超えているのは私くらいしか残っています。私以外の選択がなかったというのが正直なところではないでしょうか。本来、自分は何かこうしたいというのがあって理事長になるのでしようけど、半ば「自動的」に理事長になってしまったので、

特に何か新しい抱負のようなものがあるわけではありません。ただ、そういう中でもやはり個々の場面では、

個性は出るものですから、これらの話の中でそれを感じていただければと思います。私自身としては自然体で行こうと思っています。

12月の新機移行は約束だったのですから守らねばなりません

——パチスロ業界の目下の最大の話題は、いわゆる5・5号機への移行の問題です。12月1日以降、ノーマル機かATを主基板に移行した遊技機しか販売、新台設置ができなくなります。移行の準備はどうですか。発表したのが去年の10月ですから、かれこれ1年経ちます。メーカー各社の対応は進んでいますか。

**佐野** 1年前に決めたことです。これでもうまくいかなければ、何をやってもうまくいかなしいというところで決めたわけで、各社には十分な余裕があったと思います。ただ、最後のほうになってくると、ダム

が水を放出するみたいにならなくて許可が出てきています。そこで、さあ売ろうと思っただけで、たくさん出過ぎて市場は満杯。売余地がなくなりました。この業界では、そういう時はすぐに、1か月延ばそうか、というような話になるのですが、まあ、今回はみんな我慢して、いったん決めたことはその通り守っていこうとしています。そういうことを言いだしていくと、雰囲気があるのかもしれないね(笑)。

——理事長の前では、そんなこと言えない。分かります(笑)。

**佐野** 初めからの約束ですからね。実は、各社とも許可は出たけれど、売りに売れないという機械があるのです。最後になってあまりにたくさんさんの機械が許可になりました。そのあとは、個々のメーカーの判断です。出してしまえばそこで終わりなので、少しだけ売ってケリをつけるか、主基板移行機に作り

なおしてもう1回映像を使うか、各社とも決断を迫られているというところ。ま、ある程度、予測されたことではありますので、我慢するほかありません。

出玉に影響しては「周辺」はやはり問題早く「主基板へ」と考え

——改めておうかがいします。5・5号機というのは、従来型機と、どう違うんですか。  
**佐野** 指示機能が主基板に移ったというだけのことです。従来は機械ですと、指示機能に関するものが周辺基板にありまして、それが出玉に関係してました。しかし、周辺基板は出玉には関係しないというのが技術上の規格です。なので、今度の遊技機はそれを主基板に持ってきたということ。マイルドに言えばそういうことですね。  
——なぜ、そうしたのですか。



**佐野** 2004年の改正で5号機

になりました。当初、主基板では当りに関する基本くじのみが可能でした。やむなく、赤を狙えというくじには周辺基板で行いました。機械に技術介入は必須ですし、出玉への影響は殆どなく、周辺基板を使う以外に方法がなかったのです。数年後、主基板で技術介入や制御に関する複数のくじを持てるようになりました。一方、周辺基板の使い方は飛躍的に進歩し、押し順ナビにより、大きな出玉制御を持つようになりました。そんな中、2年前に周辺基板の不正改造がありました。周辺基板は規則上は出玉に影響してはいけないし、保護の対象ではありません。ここ2年ほど、早く周辺基板から主基板に出玉性能を移さないと、外部から指摘されたときに極めて危険だというのが頭にありましたし、実はここが一番大きな動機です。

## ゴトには強くなる 射幸性という面では 関係ありません

——新しい機械は、ゴトに強くなるということですね。

**佐野** そうですね。そこは間違いな

くそうなります。そもそもそういうことが規則上要請されています。

——射幸性とは関係はないのですか。

**佐野** 関係ありませんね。ゲームの複雑さという面では、若干の影響はあるかもしれませんが、射幸性という面では違いはありません。実際、メインに持ってきたという理由は、そうした業界外からの指摘を恐れるがためにというのが最大の理由です。昨年9月16日の保通協の試験方法の変更を契機に、主基板への移行などを決めたものですから、射幸性を抑える目的なのだろうという見方がなされるのだと思います。しかし、主基板への移行ということの本当の理由は、実は射幸性とは直接関係ありません。

## AT性能の実際は 本来の規則からは おかしいので措置

——いわゆるペナルティー機能も11月末までとされましたね。

**佐野** 順打ちするとベースが低くて、逆打ちするとベースが高い。これだったら、誰だって逆打ちしたいということになるのが当たり前です。つまり、逆打ちした場合と、順打ちした場合の違いがある。

その違いが、実はAT性能の違いだったのです。通常の役物というのは、どこから押ししても同じように出ます。ただ、ベースが低い順打ちではAT性能が高い、逆打ちではAT性能が低い、ということにしたのが現行機です。これでは、本来の規則からするとおかしなことなので、早く実機を規則に近づけたいということから、このような形にしていくことになりました。これも発端は当局からの要請でありましたが、ある意味、当然といえば当然の措置だったと思います。

## とりあえず11月末まで 次の人には影響しない

### 「新ペナルティー」

**佐野** そうはいつても、一度にはできませんので、2段階に分けました。以前の機械は誰かが1回逆押ししてしまえば、そのあと

何ゲームもそれが響くということになる。これはさすがにヒドイだろうということでは、次に打った人には影響しない、というふうにしました。それが「新ペナルティー」というやつですね。逆打ちすると確率が低くなる。逆打ちしたプレイヤー自身は仕方がな

い。でも次の人は、もはや関係ない。ペナルティーはリセットされる。こういうことで、11月末設置までいこうということになりました。ただ、12月1日からは指示機能が主基板になるタイミングで、ペナルティーそのものをやめようということになりました。12月設置からは、ペナルティーという機能そのものがなくなります。どこから打とうとATの性能も一緒になるということです。

——短期間ですが「新ペナルティー」搭載の機械というの、出ているわけですね。

**佐野** この11月末までに設置する機械は新ペナです。自分自身のペナルティーは許されるので、順打ちするとベースの低い機械も出てきていますね。

## 新基準機は小容量で シンプルになるから 広がり持てるかの競争

——プレイヤーからすると、5・5号機というのは、遊技が単純になるとか、これまでよりも面白さは、どうなるのだろうか、という心配の声も聞こえてきます。

**佐野** 射幸性からするとあまり関



係ありません。複雑さというのはメモリーの容量によります。主基板に許されている容量が4キロバイトですが、いわゆるサブ基板、周辺基板はその1000倍くらいあります。コンパクトな中で、従来機のような広がりをごこまで追求できるか、そういう競争になってくるのだと思います。

——技術者にとっては、けっこう難しいことになるわけですか。

**佐野** 以前は、面白いことをやろうとすれば、より大きな周辺基板を使えばよかったです。100のものを使うか1万のものを使うか、自由だったわけです。でも、今後は1万のものを使っても、何にも使えない。4キロバイトの中でしかできないので、よく言えばシンプルな機械ということになります。ただ射幸性についていえば、このことは一切関係ないと思います。

——小さな容量の中で、いろいろ工夫するのが各社の腕の見せ所となる…。

**佐野** そうですね。一方で試験機関は主基板に周辺基板にあったATの出玉性能がまとめて入ってくるので仕事量が増えると思います。試験機関の方たちが一番大変にな

「パチスロの日」の秋葉原会場でテープカットする佐野理事長(左)。右は回胴遊商の伊豆正則理事長



るのではないかと思います。

**本音から言えば**

**従前の型式の機械を  
設置しておきたくない**

——話は変わりますが、新基準に該当しない遊技機の取り扱いで、全日遊連の基本方針を巡って6団体で話し合われましたが、日電協としてはどのようなお考えを持っていたのですか。

**佐野** ここ最近ですが、新基準に該当しない機械について、高射幸性遊技機を検定期間に優先的に

撤去し、各メーカーはその下取り等について適切に対処し協力するという方針で合意に至ったところです。

日電協の考え方でお話ししますと、平成27年12月1日からの検定期からは周辺基板は出玉性能を持ってませんから、周辺基板に出玉性能を持つ従前の型式と同一の機械を試験申請したとしても検定は通らないのです。メーカーは現在の基準に合致しない機械を検定期間を過ぎて設置しておきたくないというのが本音です。

**「設置」と「交換」など**

**なぜもっと早く**

**電子化しないのか**

——新台入れ替えと部品交換のルール作りについて、日工組、日電協で話し合いがもたれました。日遊協も入っているわけですが、これについてはどのようなお考えをお持ちでしょうか。

**佐野** これはもう、私の意見としては、なんでもっと早く電子化をしないのだろうか、ということだと思います。電子化すればいいことがたく

さんある。いまはスマホやなんやかんやでみな写真を取っていますよね。いつ写真を撮って、いつ申請したかは、全部証拠が残ります。一番始めやすいところは、たとえ

ば離島です。所轄の方が離れた島のパチンコ屋さん、簡単に検査に行くことなんてできません。それこそいまのITが一番やりやすいことなのではないでしょうか。もはや、電子化する、しないの議論ではなく、まず電子化するという目標を決め、そのためにネットワークの方でも調べて、行政に提案すべきではないでしょうか。新台設置や変更承認などの手続きに各所轄のマンパワーを割くべきことではないと思います。

**所轄のマンパワーを**

**割くことはムダ**

**我々が提案しないと**

——ホールによっては、自分のところは電子化しているのだが、現状では、最後はやはり紙で全部やらざるを得ない、ということになっているようですね。

**佐野** 本来、行政側が予算取って、電子化、ペーパーレス化しなくて



はいけません。何がネックなのかわかりませんが、それはそれで早急に、誰かがスタートしないと、始まらないと思います。ほんとに早くやってもらいたい。お互いのために。所轄のマンパワーをこんなことに割くのは無駄なことです。

——おっしゃる通りですね。

**佐野** ホントは、われわれが調べ上げて提案しないといけないのです。提案すると、行政の方も気合を入れられてやってくれるのではないかと思います。

——日遊協の遊技機委員会でも、ホールの立場から、そうしたことを考えている人はいますね。

**佐野** 頼もしいですね。夜中でも何でも故障したらその部分をスマホで写真撮って、ファイルとして書類と一緒に送ってしまえばいいわけですよ。そうすれば、みんなも助かるし、その分経費の削減になると思います。われわれが主導してもいいから、そうしたいですね。

## 40万円相当出るには 1日中ARTが続く 問題がありすぎです

——今後、パチスロというのは、どのようになると思いますか。

**佐野** 平成元年の統計によれば、その時の消費金額からすると、いまのユーザーは4倍くらいの消費金額を使っています。今は一人当たり20万円、当時が5万円位です。そのころから、日本ではそれほどインフレというのは起きていない。物価は倍にもなっていない。にもかかわらず、MY(1日の最大差玉)2万枚、40万円相当というのは、どう考えても大きすぎる。それを下げると、お客が入らなくなるといいますが、40万円相当出る機械というのは、1日中ARTが続く場合です。ただし、そういう性能というのは試験ではなかなか検出されない。出れば当然試験に落ちてしまいます。出ないで試験を通過してしまつて、実際のホールでは出してしまう場合がある。いま一番問題になっているのは試験と現場との乖離の問題です。そのいちばんの問題が、時たま出る、1日中続くARTです。これは規則の求めるところとは違いますが、制限することによっておのずとMYは落ちてきま

す。ATの性能を規制することでMYは落ちる。1日中ATが当たっているとその人は1日中、100%やめられないということにもなるし、問題があり過ぎです。

### 行政から指摘されて リスクになる状況は 早く取り除きたい

——いろいろな弊害が出てくるわけですね。

**佐野** やめるにやめられない、ずっと続く性能であつても試験に通るような性能であれば、それでいいと言えはそれまでですが、それでは世の中通りません。ただ、これも試験と実態が違うというのを



歴代の理事長ポートレートを指差しながら日遊協の状況を話す佐野理事長

是正していけば、自然にMYの低下というのは、決まってくると思います。今回から出玉指示機能が全部サブ基板からメインに移ります。ATについては、メインに移つて、ATだけでは増えないようにしました。次はARTです。ARTのうちRTというのはもともとある性能ですが、これが1日中続くというについては、ある制限を考えております。規則で許されていることを制限することはできませんので、規則との整合性がある範囲で、どの辺に制限をおくかということだと思います。これは自主規制というよりも規則との整合性を回復するための一連の措置ということですね。

——射幸性ということについて、やはり依存の問題なども意識されていますか。

**佐野** そうですね。大きな目で見て、社会的にも、規則上からも行政に指摘されて、最後は業界が死んでしまうようなリスクというのは、なんとか早く取り除きたい。指摘されたら本当に困るようなことだけは、直しておきたいという気持ちです。依存症の問題もそれです。いまだいえばMY2万枚、



40万円というのは、射幸性からして、著しく射幸心をそそる機械だといえるわけです。これはもうそういう機械だと業界外から指摘されますと、それを止めることは困難です。ところが、実はもうここまで自主規制して、すでに是正措置を始めていますと言えば、それなりに考慮してもらえないと思いません。そういう心配のいらぬ状況を作ることができるだけ早く作りたい。入賞Sim1未満規制も、出玉性能を周辺基板から主基板に移すのも、試験と現場の乖離をなくして2万枚の差玉を減らすことも必要です。そこは私の役目かなと思います。最悪の状況が起きないようにやっていきたいと思っています。

## 「風営法電子化のため日遊協がある」

### そんな気構えを期待

——この度、日電協は、日工組と一緒に団体加盟されました。どのような動機からでしょうか。

**佐野** 当たり前のことではないのでしょいか。横断的組織なので、私の代からではなくてもっと前から日電協各社はみな会員であったはず。団体加盟については、

里見さんのころからそういう話はしていたと思います。

——今後、日遊協に期待することというのは、何でしょうか。

**佐野** 機械の方は日工組と日電協でやりますが、さっき言った変更承認のシステムとか、日遊協の宿題としてやられたら、結構いいテーマになるのではないのでしょうか。目標は所轄のパワーをこんなものに割かないということではないかと思えます。電子ファイルにできません。規則を守ることができません。いまのシステムでは、規則を守れないシステムになっていきます。そういうシステムにしておいて規則を守れと言っているようなところがあります。記録的にファイルさえ残しておけばいい。IT業界の売り込みが下手なのかもしれない。みんな助かるわけですから。風営法電子化のために日遊協がある、というくらい気構えで、やっていただきたいと思えますね。

## パチスロ創世記に

### この仕事始めましたが

### 当初は制度も不完全で

——佐野さんの創業された山佐はもともと材木商から始まったと聞

いています。この業界に入られたきっかけというのは、どういうことだったのですか。

**佐野** 回胴式については、マックスブラザーズの角野博光さんという方が草分けなのです。彼がセガが作ったオリンピアマシンを扱っており、それを手伝っておりまして、それがきっかけでしょうか。角野さんなしではこの業界はなかったと思います。いろんな事情から、彼のところが困難に陥ってしまい、その後を継いで始めました。ちょうど同じころユニバーサル岡田和生さん、サミーの里見治さん、高砂の濱野準一さん、オリンピアの石原昌幸さん、みな同じ時期にスタートしました。日電協もほどなくスタートし、初代理事長は濱野さんでした。しばらくたってから風営法の改正が行われました。昭和60年です。

——パチンコと違って、パチスロは全く新しい遊びとして登場しましたね。パチスロにける夢のようなものが何がありましたか。

**佐野** 私を含め、先行きのことを考えるなんていう余裕はありませんでした。いちばん最初の頃は、10円のところもあれば20円のところ

もあるし、技術上の規格のようなものも全くありませんでした。制度としては、各県公安委員会の認定しかなかった。統一的な試験機関がないとどうにもならないということ、昭和60年の風営法改正でようやく試験機関ができました。そのころから居るといえるのは、もう数少なくなっていました。

## 50歳からマラソン大会にもときどき山登りでは危ない目に

——佐野さんは、趣味がマラソンということですか。

**佐野** 毎日走るということではないのですが、時々いろいろな距離の大会には顔を出します。50歳を過ぎてからはじめました。

——山登りもされているとか。

**佐野** 高いところから落ちたり、死にかけたこともあります(笑)。

——マラソンといい、山登りといい、穏かな印象を受ける佐野さんですが、内に秘めたものがありますか。

**佐野** まあ、マラソンも山登りも汗をかきながら、健康にはいいです。——本日は、お忙しいところ、ありがとうございました。